

一粒の麦

荻野吟子の生涯

日本で初めての女性医師、
荻野吟子不屈の精神と大いなる愛に生きた波乱の人生が
映画化されました。
ここに吟子の生涯をパネルで紹介します。

熊谷市出身の日本初の女性医師 荻野吟子の映画化にともない山田火砂子監督は熊谷市の「荻野吟子記念館」を訪問されたのち、吟子生家の長屋門が移築されている群馬県千代田町の「光恩寺」を訪問されました。熊谷市と利根川を挟んだ対岸の千代田町は今日も両地域住民の親戚関係も多く、昔から繋がりの強い地域です。

1851(嘉永4)年3月3日は吟子女史の誕生日を祝い「荻野吟子記念館」で「吟子まつり」が行われます。
この時期に、吟子女史の映画化に取り組む山田火砂子監督が製作に向けた思いを語る映画の上映会が「妻沼中央公民館」で行われました。
新元号に向けて、「花埋み」から「一粒の麦」へ期待のときです。
令和元年10月、ついに公開されました。



荻野吟子記念館
「一粒の麦」は熊谷市にゆかりのある映画
です。



▶ 鹿鳴館スタイルの荻野吟子

パネルその1

資料提供 (株)現代ぷろだくしょん
写真提供 (株)トライストーン・エンタテイメント
引用元 映画『一粒の麦 荻野吟子の生涯』facebook / Imgrum#荻野吟子photos&videos
若村麻由美 mayumi wakamura official

写真と解説はイメージです。史実と異なる場合もあります。

日本における最初の女性医師。1851(嘉永4)年、埼玉の名家の五女として生まれ、幼いころから聡明で、勉強好きであった。16歳で結婚するが、夫から病気をうつされ実家で療養をすることになった。協議離婚後、大学東校(後の東京大学医学部)の付属病院に入院。入院中、女医の必要性を痛感し、自分自身が女医になる決意をする。故郷に戻り、本格的に学問を始める。妻沼村 両宜塾に入門し、松本万年の教えを受けた後、22歳で上京し、井上頼圀の私塾神習に入る。その後、初めて女性の教育養成を目的とした女子高等師範学校を経て、私立医学校好寿院に学ぶ。医学開業試験の請願を幾度となく提出するも、ことごとく却下されるが、決して諦めず、1885(明治18)年、34歳の時、医術開業試験に合格。女性として初めて医籍に登録された。同年、荻野医院を開業。この頃、キリスト教婦人矯風会に参加1891(明治24)年の岐阜県の濃尾大地震では、女子の孤児たちを保護するために立ちあがった石井亮一(日本の知的障害児教育の創始者)に賛同し、荻野医院を子供たちのために開放、自らも孤児たちの世話をを行った。1890(明治23)、牧師 志方之善と結婚し、1894(明治27年)、北海道に渡り開業。夫の死後帰郷し、1908(明治41)年、東京で医院を開いた。1913(大正2)年、脳溢血により死去。62歳。

映画「一粒の麦 荻野吟子の生涯」より。